

全般季節予報支援資料

1か月予報

2025年7月24日

予報期間：7月26日～8月25日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本は、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。沖縄・奄美は、期間のはじめは気温がかなり低くなるでしょう。東日本日本海側は、期間のはじめは降水量が少ない状態が続くでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

- ・ 北日本では天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東日本と西日本日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

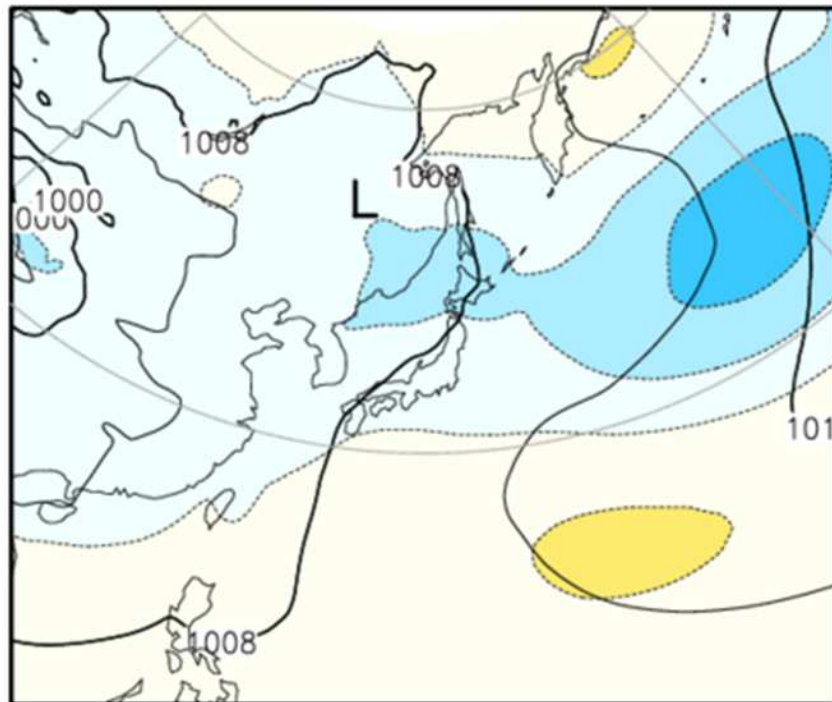
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 40:30:30	20:40:40 20:40:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	40:30:30 40:30:30	20:40:40 20:40:40	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:30:30 30:40:30	20:40:40 30:30:40	
沖縄・奄美		40:30:30	20:40:40	50:30:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:40:50	10:30:60	20:30:50
沖縄・奄美	70:20:10	20:50:30	20:40:40

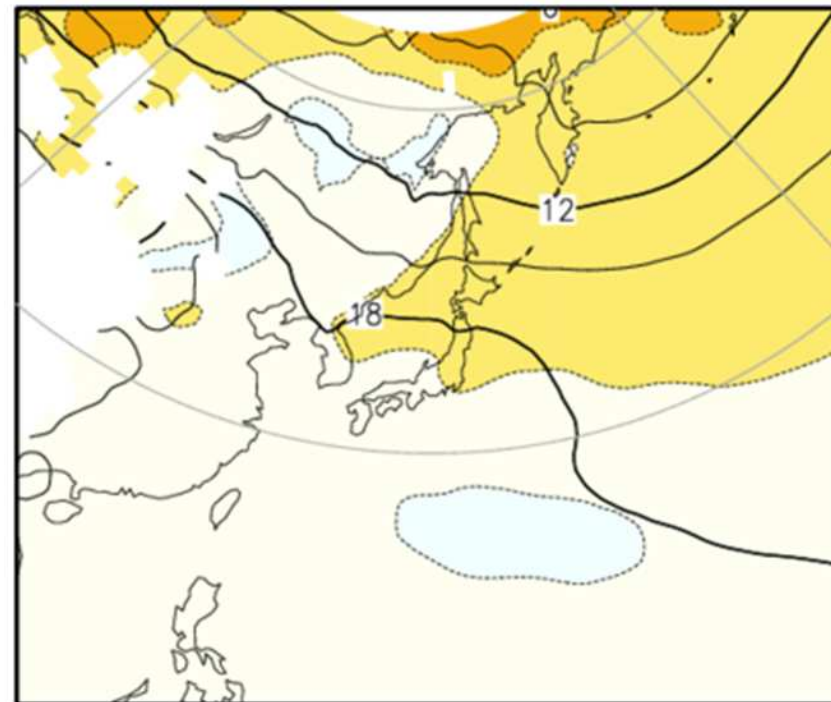
全般予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本では高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は、北・東日本と西日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- 東日本日本海側は、6月下旬から降水量が少なくなっています。期間のはじめにかけても太平洋高気圧に覆われて、降水量が少ない状態が続くでしょう。
- 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並が多く、日照時間は少ないでしょう。期間のはじめは気温がかなり低くなる見込みです。

海面気圧(1か月)

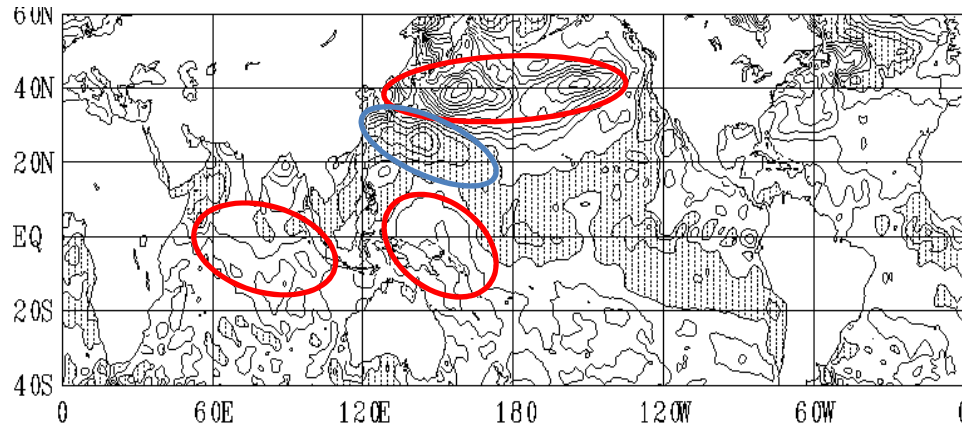


上空約1500mの気温(1か月)



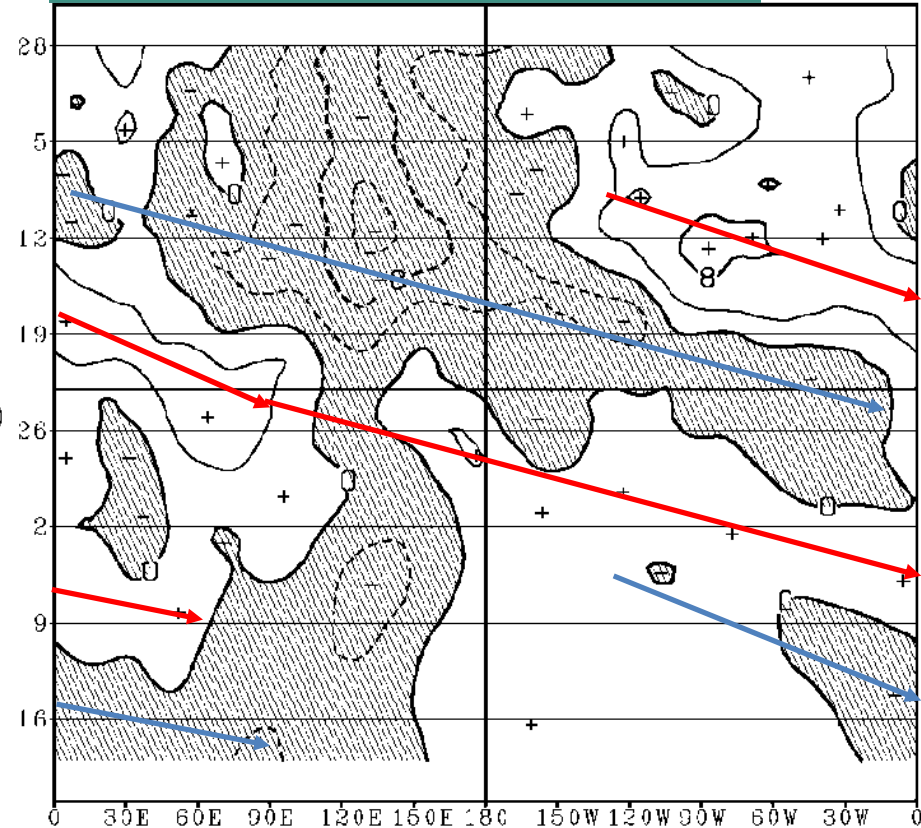
1か月平均の海面気圧(左図)は、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。沖縄・奄美では、太平洋高気圧周辺の湿った空気の影響を受ける時期があるでしょう。
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、インド洋、太平洋西部で正偏差。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く正偏差。日本の南で負偏差。

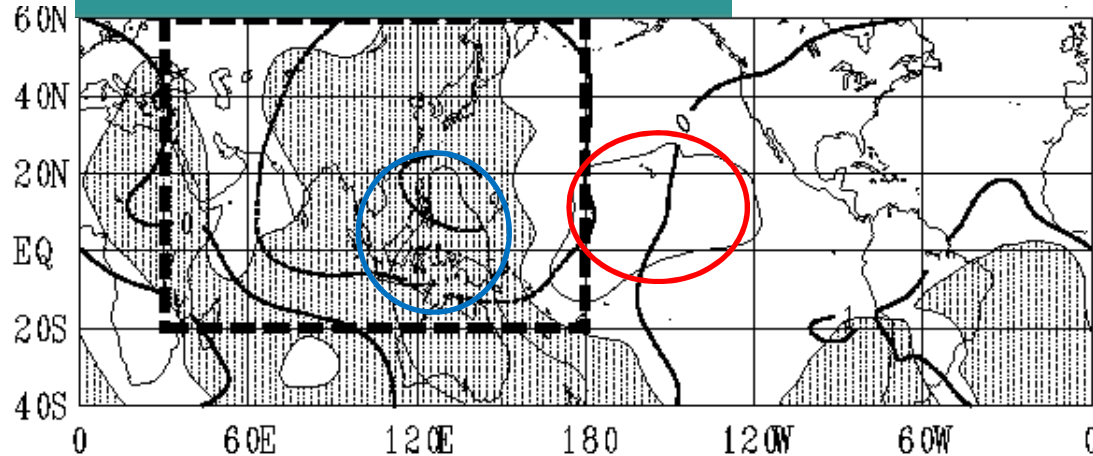
200hPa速度ポテンシャル偏差



収束偏差域(対流不活発域)が、1週目から2週目にかけて、太平洋熱帯域からインド洋に東進する。発散偏差域(対流活発域)が、2週目から4週目にかけて、太平洋熱帯域の東部からインド洋に東進する。インドネシア付近では2週目を中心に発散偏差が持続する。

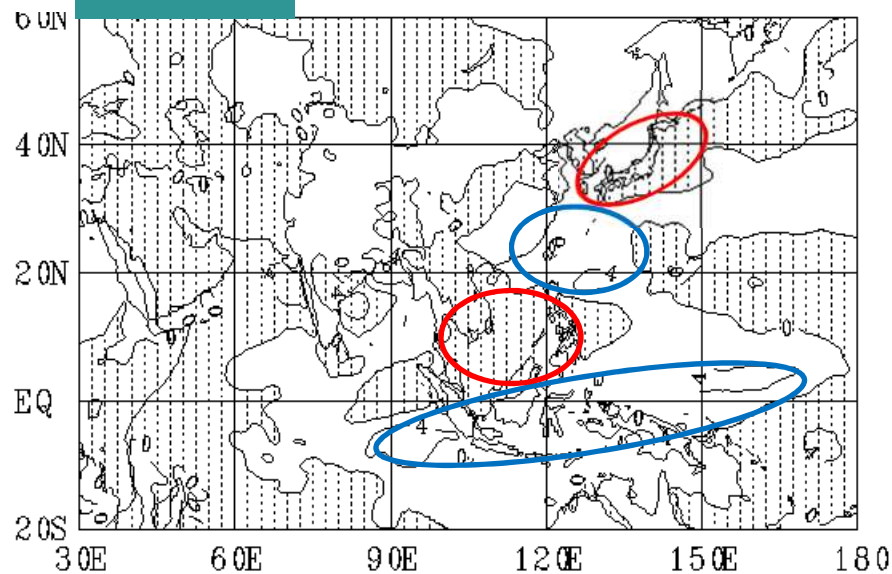
予報資料の解釈 1か月(7/26~8/22)

200hPa速度ポテンシャル



インドネシアからフィリピン東海上で上層発散偏差。一方、太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

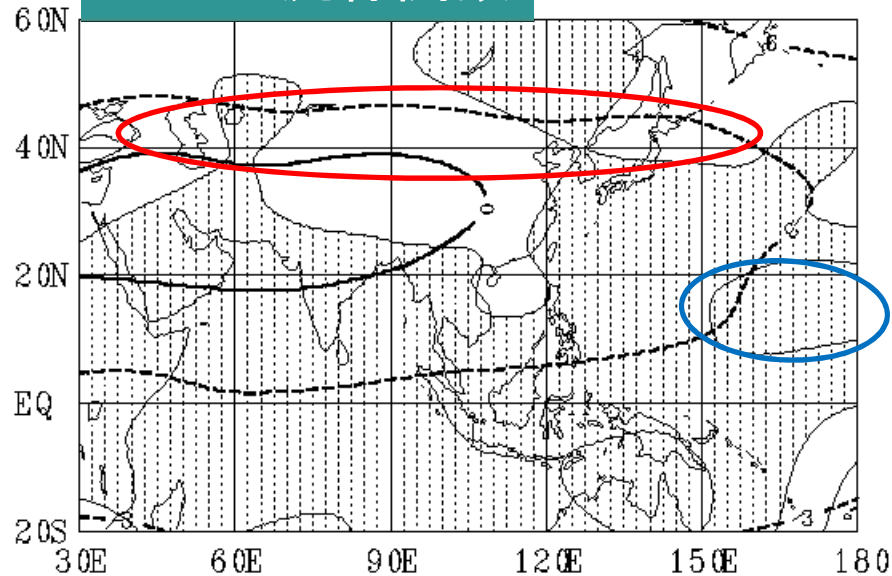
降水量



フィリピンの北東から沖縄・奄美付近、インド洋東部赤道域からニューギニア島の北東海上で多雨偏差。南シナ海で少雨偏差。また、本州付近はやや少雨偏差。

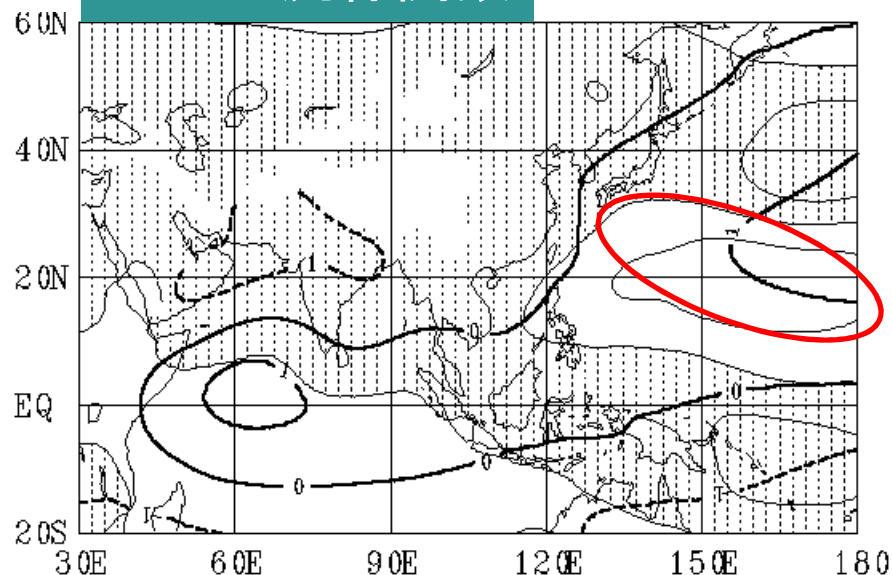
予報資料の解釈 1か月(7/26~8/22)

200hPa流線関数



ユーラシア大陸の中緯度帯で高気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近で北偏して流れる。一方、太平洋西部の北緯10度から20度付近で低気圧性循環偏差で、中部太平洋トラフが深く西に延びていることに対応。

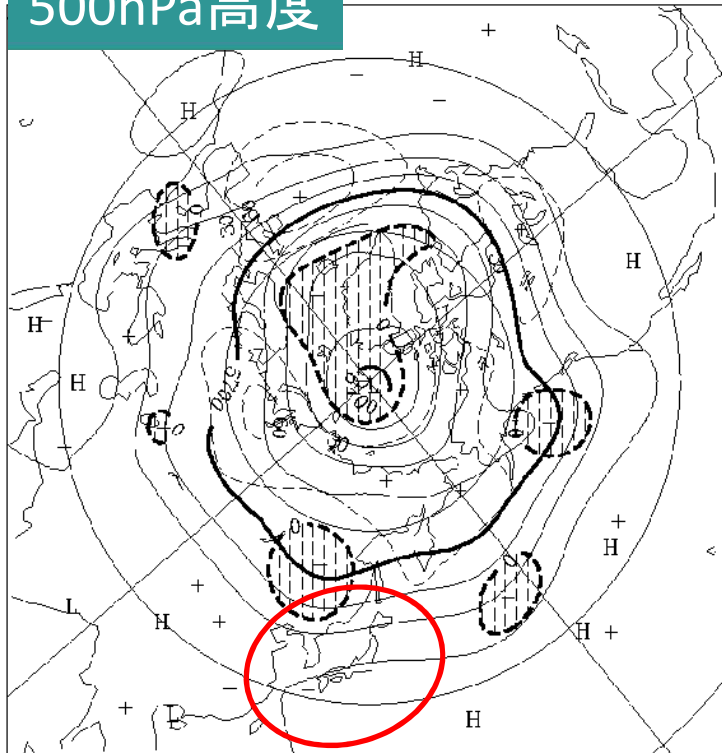
850hPa流線関数



太平洋西部の北緯20度帯から日本の南にかけて高気圧性循環偏差で、日本付近に張り出す時期があることに対応。

予報資料の解釈 1か月(7/26~8/22)

500hPa高度

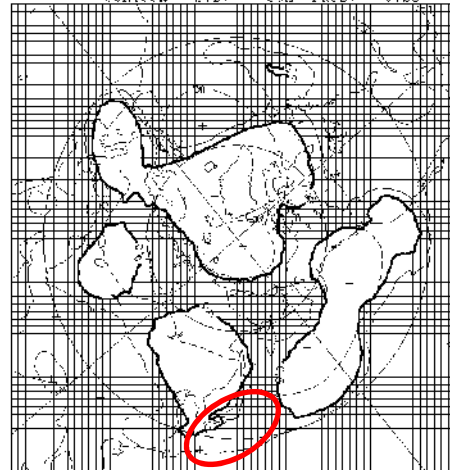
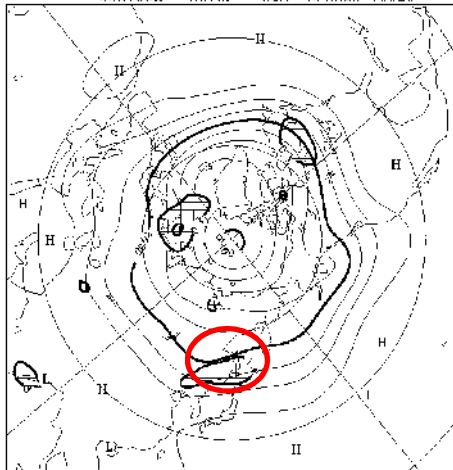


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 40m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

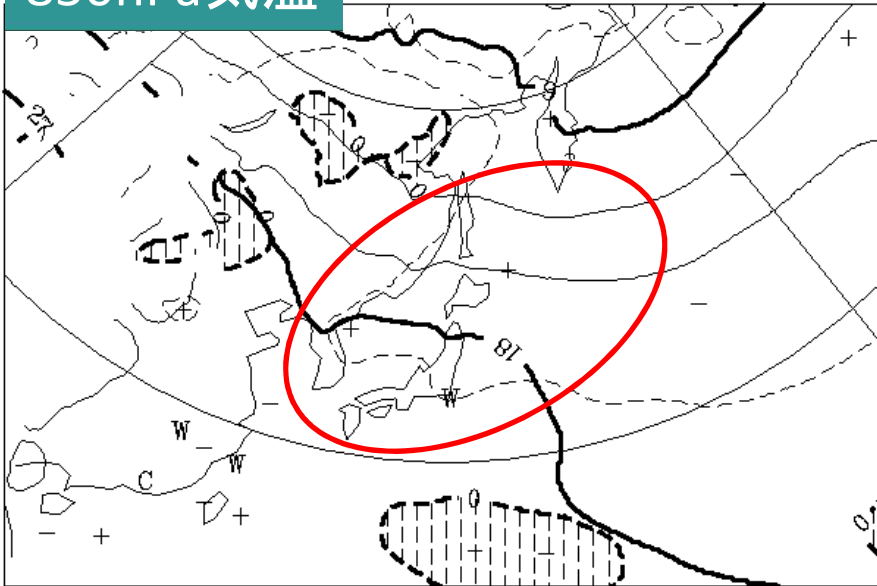


北半球の中緯度帯は、ほぼ全域で正偏差で、日本付近も正偏差に覆われ、高気圧が東日本以西を覆う。

全国的に正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本の北にスプレッドの大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播の予測の不確実性を示唆。

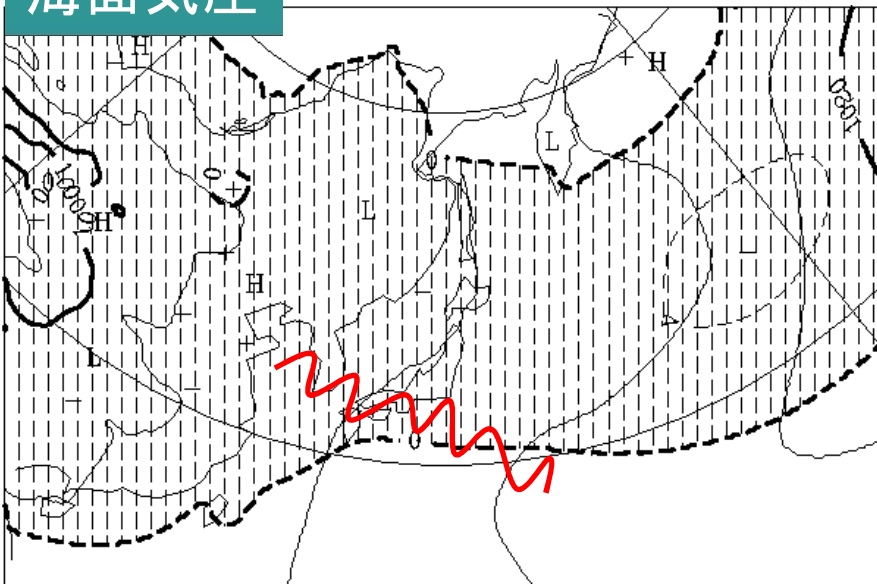
予報資料の解釈 1か月(7/26~8/22)

850hPa気温



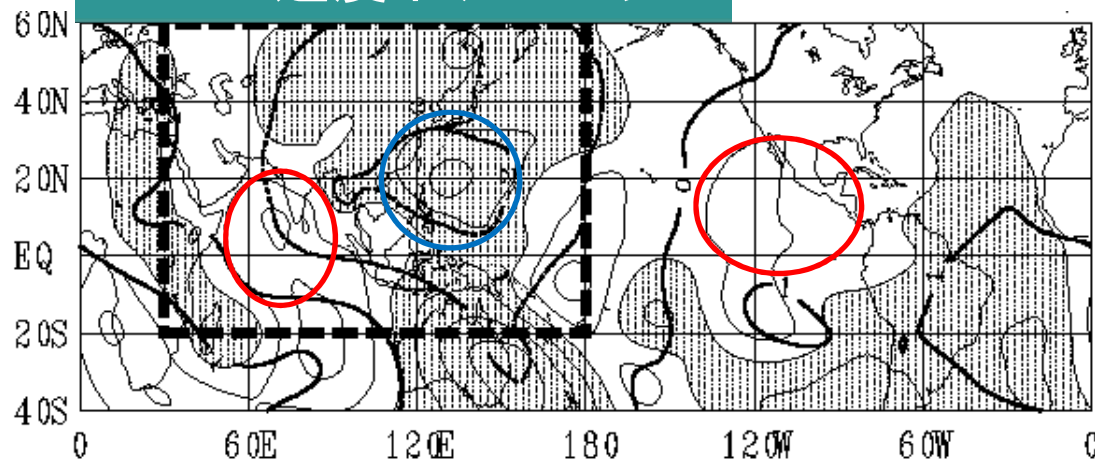
日本付近は、北日本を中心に正偏差に覆われる。

海面気圧



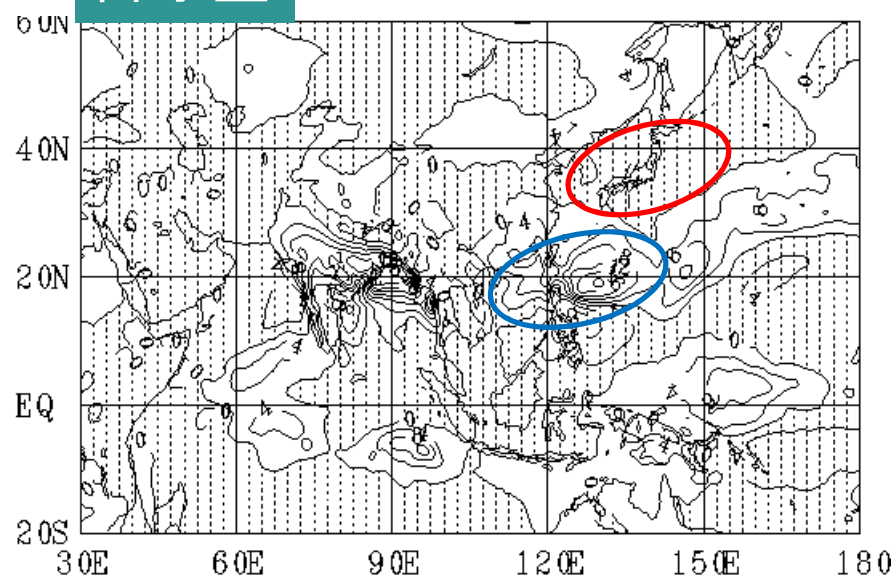
日本の南海上は正偏差、本州付近は負偏差。太平洋高気圧は西日本に張り出している。北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われる時期と、太平洋高気圧周辺の湿った空気を受ける時期がある。沖縄・奄美では太平洋高気圧周辺の湿った空気の影響を受ける時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



フィリピンの東を中心に上層
発散偏差が強い。一方、太
平洋熱帯域の東部とインド洋
西部で上層収束偏差。

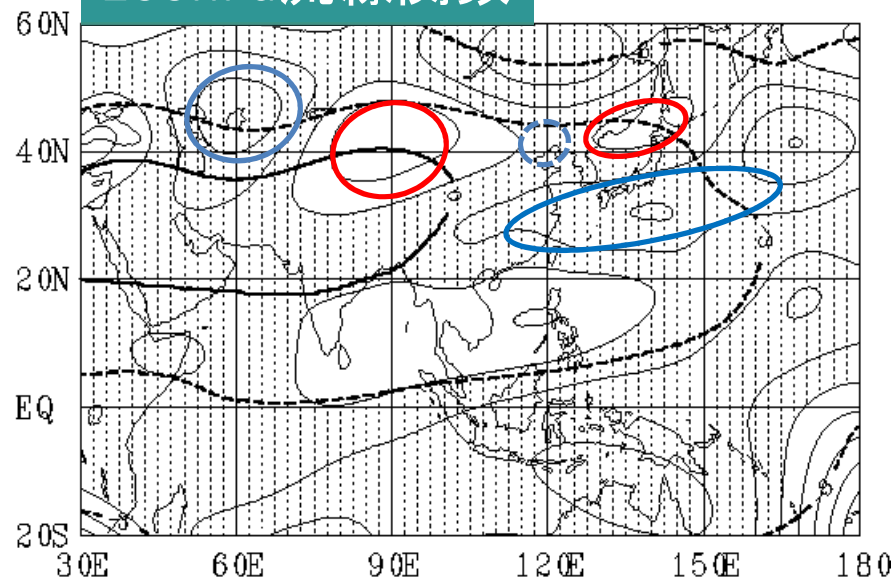
降水量



南シナ海からフィリピンの東で
多雨偏差。北・東・西日本は少
雨偏差。

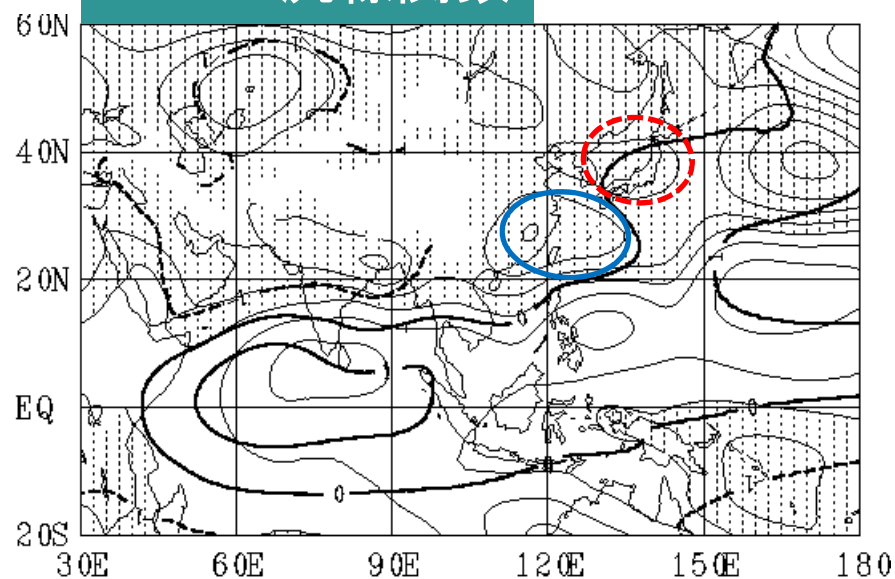
予報資料の解釈 1週目(7/26~8/1)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流に沿って、波列が見られ、北日本付近は高気圧性循環偏差。一方、日本の南では低気圧性循環偏差。

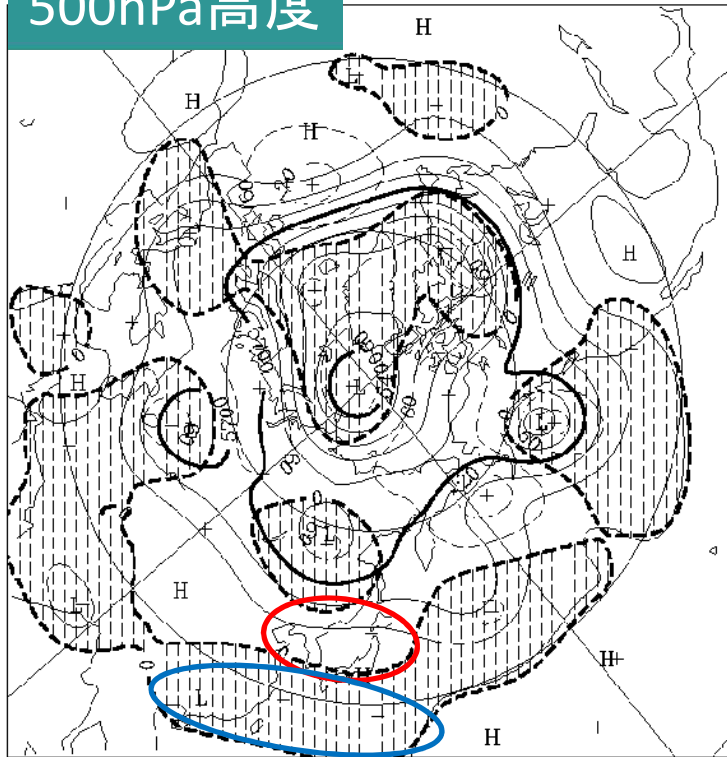
850hPa流線関数



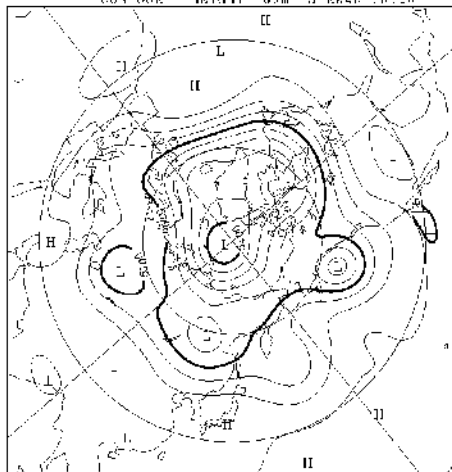
対流活動に対応して、沖縄・奄美付近は低気圧性循環偏差、本州付近は相対的な高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1週目(7/26~8/1)

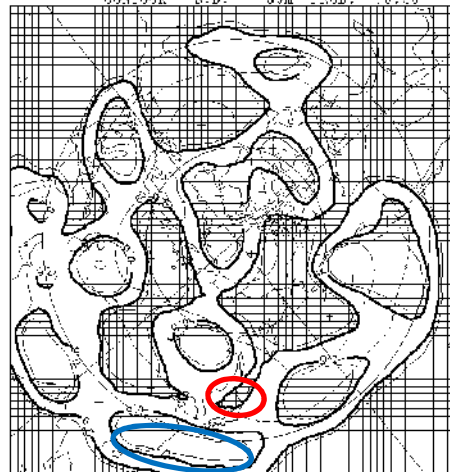
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20



PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

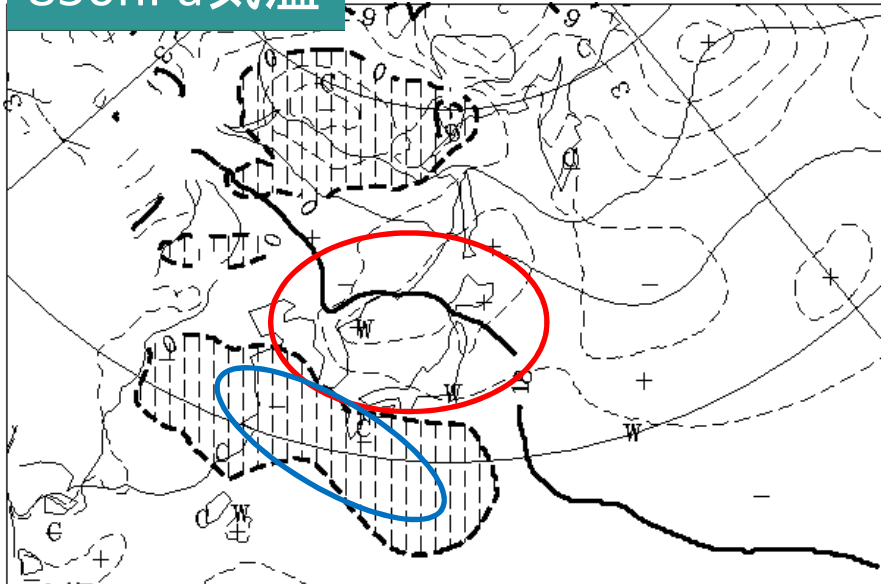


本州付近は正偏差。一方、日本の南から中国南部にかけて帯状に負偏差。

北日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。一方、沖縄・奄美付近は負の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。

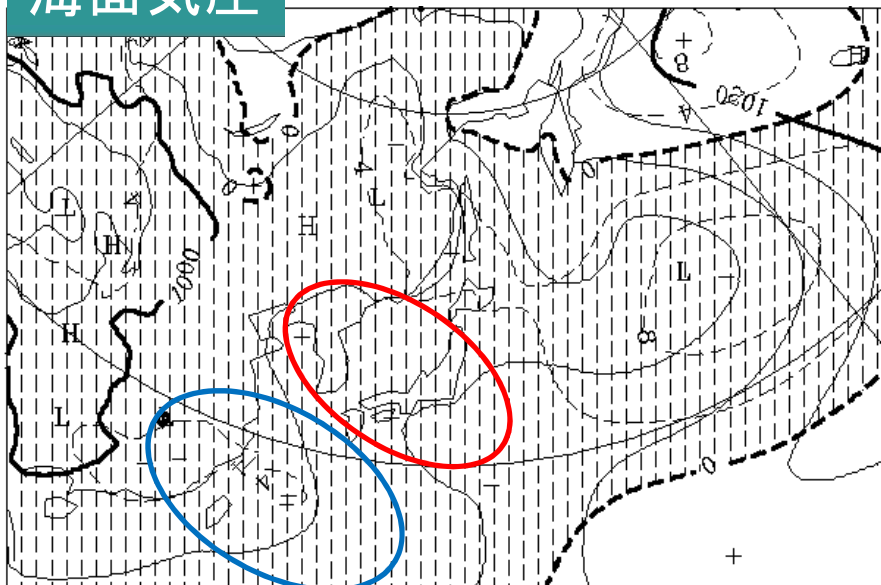
予報資料の解釈 1週目(7/26~8/1)

850hPa気温



本州付近は、北日本中心に正偏差に覆われる。一方、九州から奄美地方は負偏差域に覆われる。

海面気圧



華南から日本の南にかけて低圧部で、沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすい。一方、本州付近では、負偏差は相対的に小さく、太平洋高気圧が本州付近に張り出す。

想定される天候

- ・ 北日本では天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本はかなりの高温。西日本は高温。

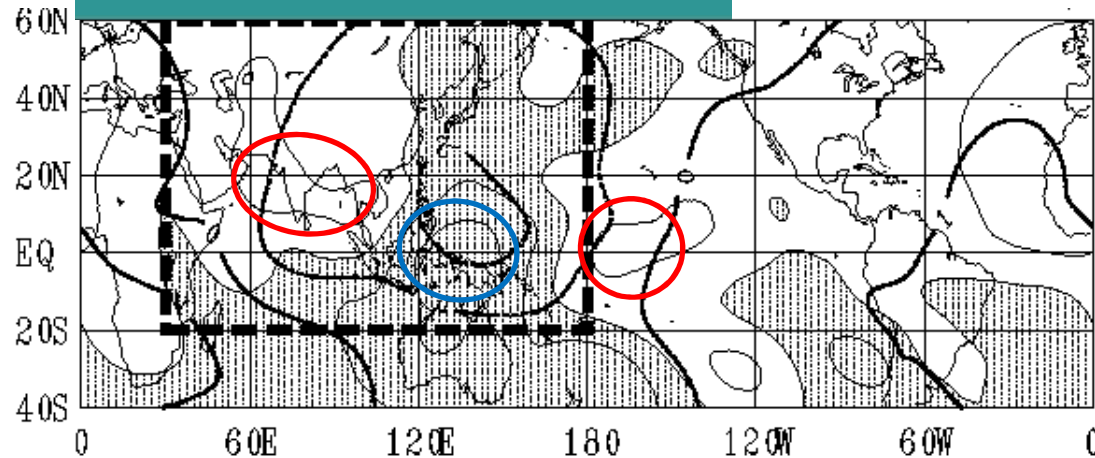
沖縄・奄美は、湿った空気の影響を受けやすいため、かなりの低温。

<天候>

北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい。

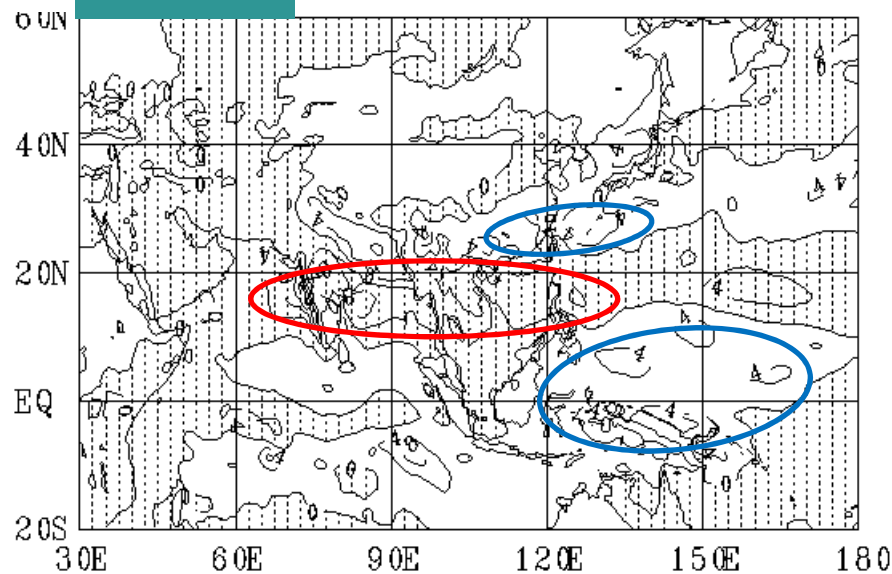
沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



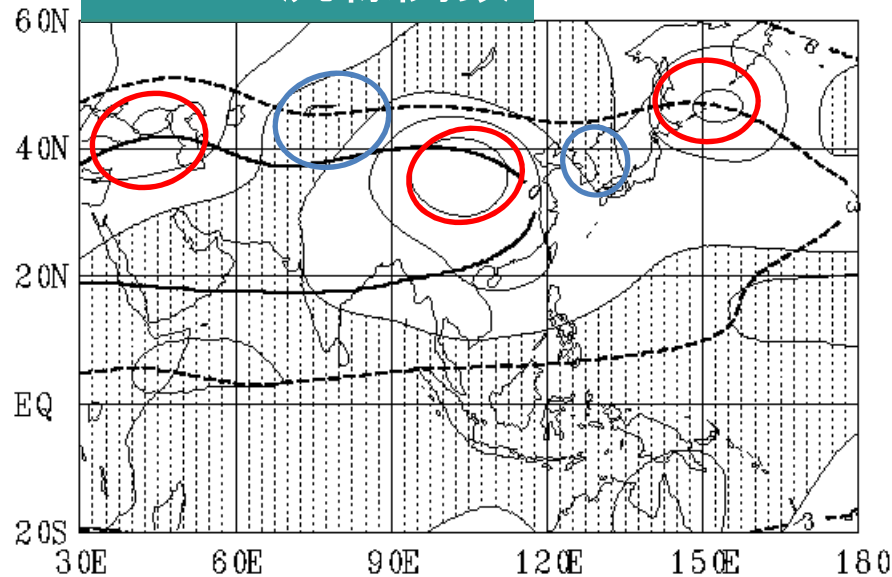
インドネシア付近で上層発散偏差。インド洋北部と太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

降水量



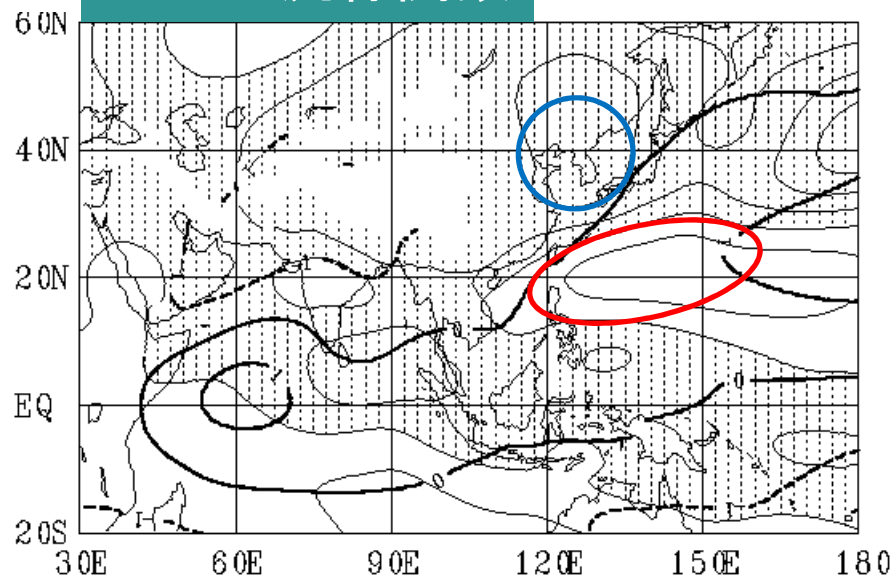
華南から日本の南、ニューギニア島からその北方で多雨偏差。インド付近からフィリピン北部にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



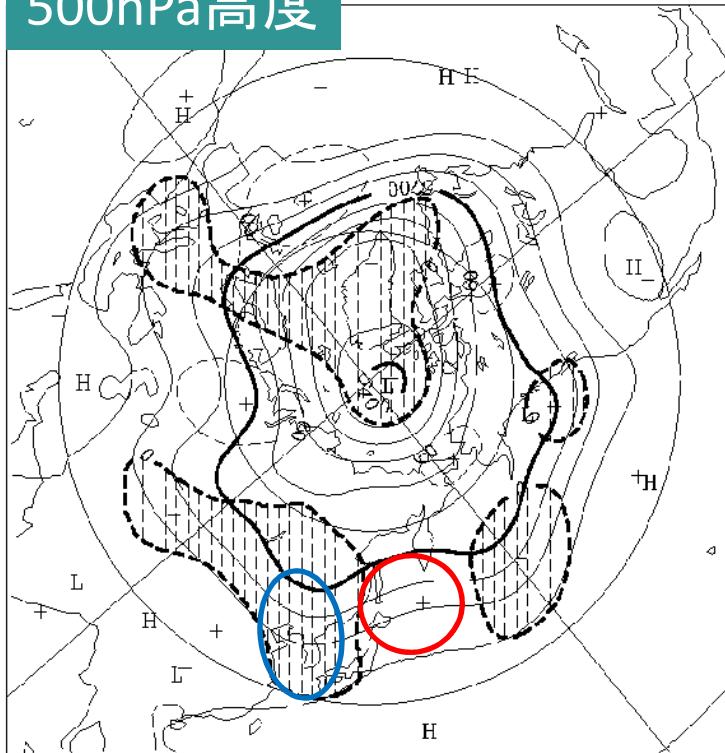
亜熱帯ジェット気流に沿って波列が見られ、朝鮮半島付近は低気圧性循環偏差、オホーツク海で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



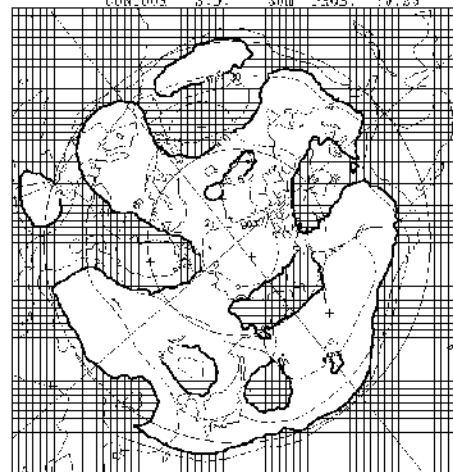
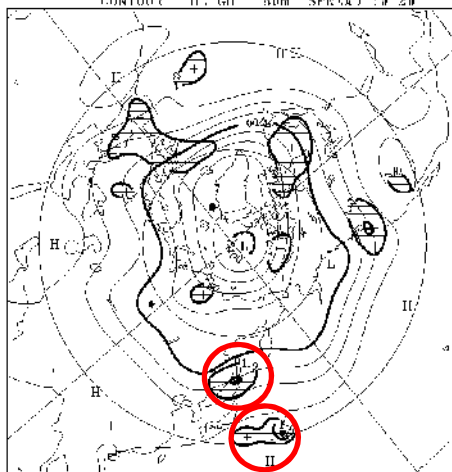
朝鮮半島付近に低気圧性循環偏差、日本の南で高気圧性循環偏差で、太平洋高気圧は日本の南で南西に張り出す。

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

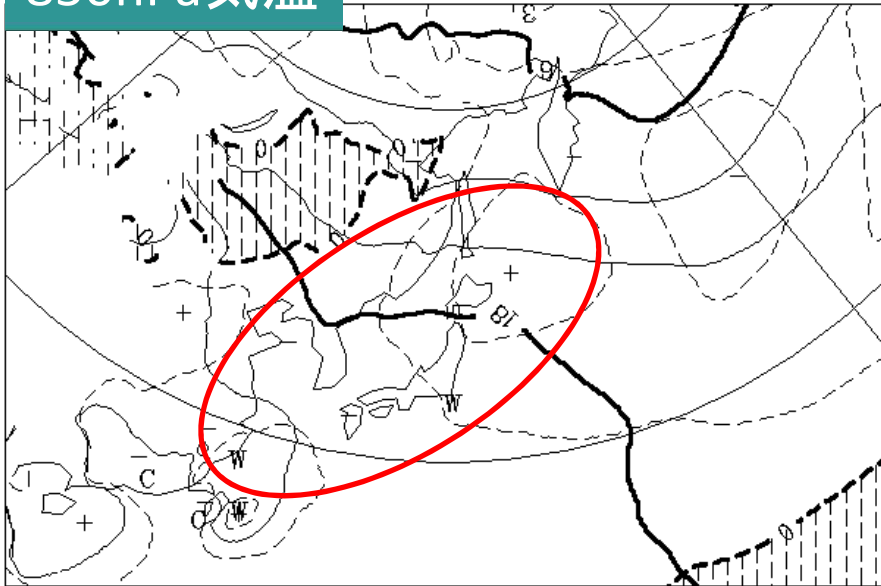
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



朝鮮半島付近が気圧の谷となり負偏差、一方、日本の東で気圧の尾根となり正偏差で、西谷が明瞭で、その前面では上昇気流となりやすい。

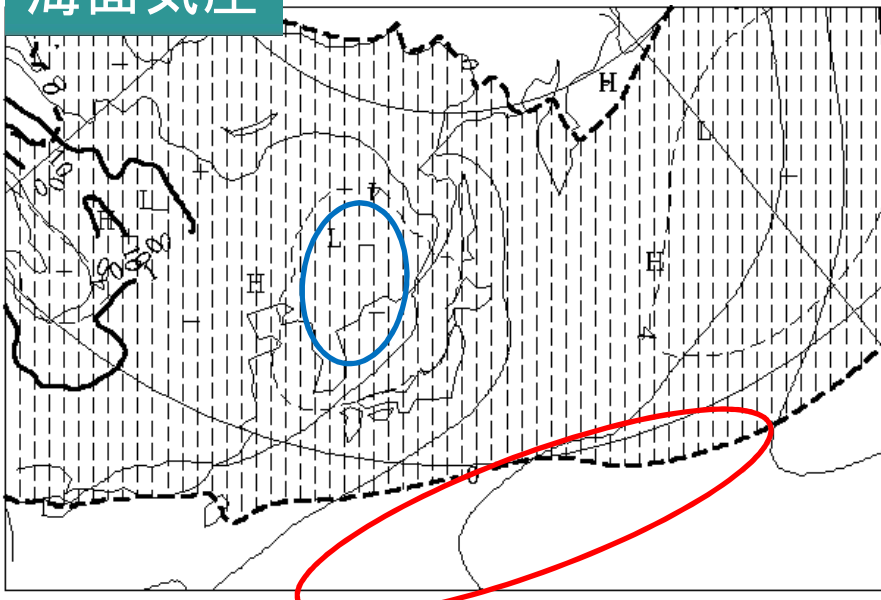
日本の北と南西にスプレッドの大きい領域が見られ、前者は寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性、後者は熱帯じょう乱の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差に覆われる。

海面気圧



太平洋高気圧は、日本の南で南西に張り出す。一方、朝鮮半島付近から中国東北区にかけて低圧部となる。日本付近は、高気圧周辺の湿った空気の影響を受けやすく、また、低気圧や前線の影響を受ける可能性もある。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本と西日本日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、湿った空気の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

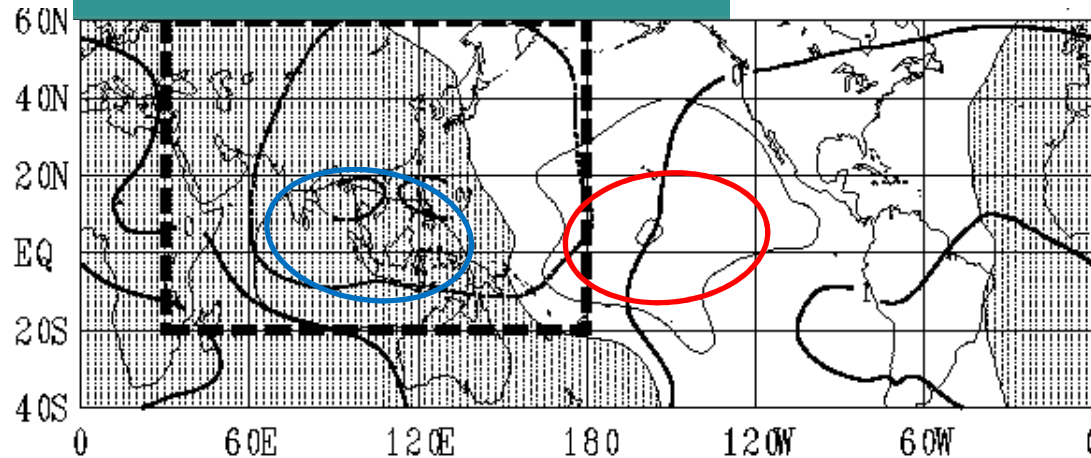
<気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、北・東・西日本でかなりの高温。

<天候>

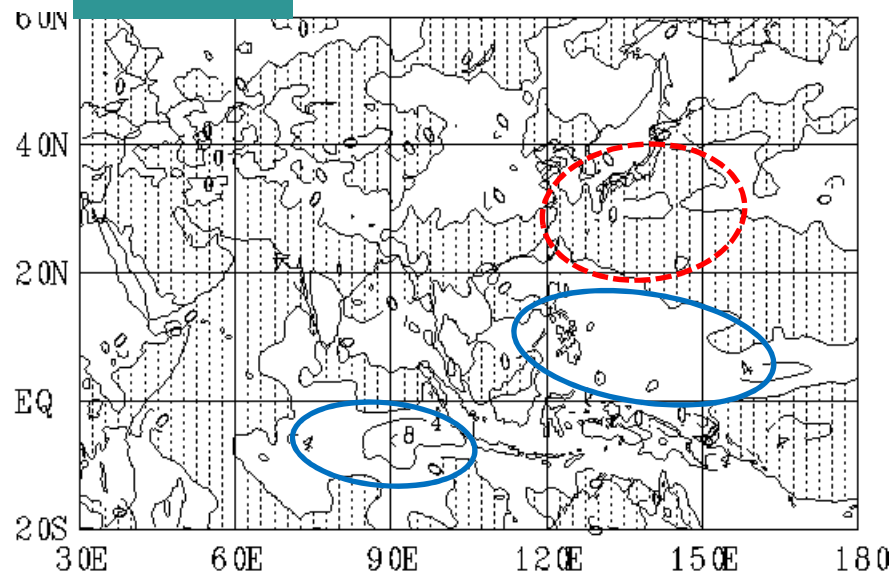
・北・東日本では、湿った空気の影響を受けやすく、多雨傾向。西日本と沖縄・奄美は湿った空気の影響を受け、西日本は多雨、太平洋側で寡照傾向。沖縄・奄美では、多雨傾向、寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差、太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

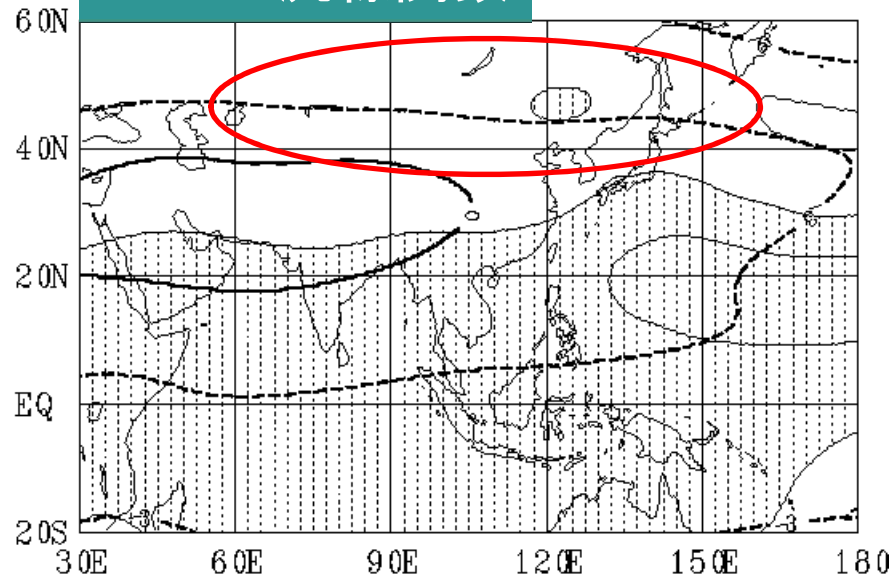
降水量



フィリピンの東からニューギニア島の北とインド洋赤道域東部で多雨。日本の南から日本付近はやや少雨傾向。

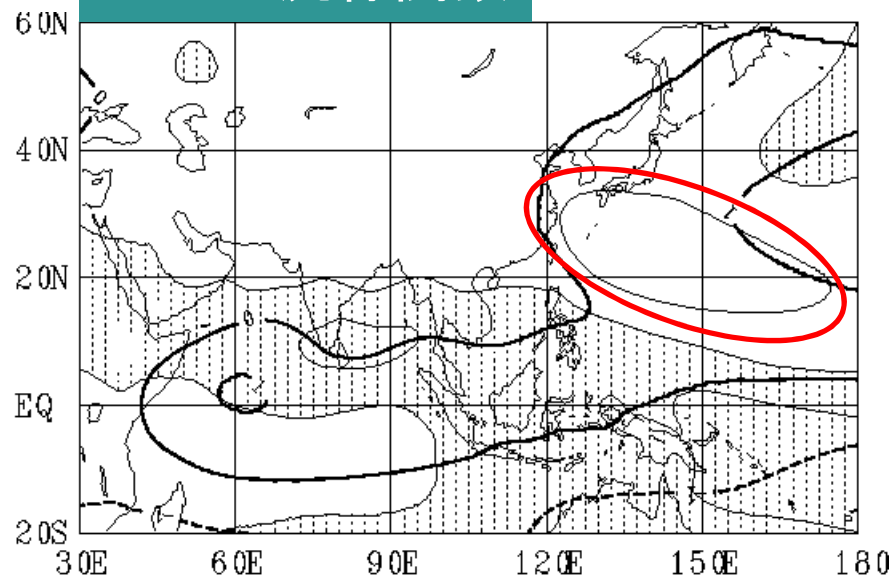
予報資料の解釈 3～4週目(8/9～8/22)

200hPa流線関数



ユーラシア大陸から日本付近にかけての中緯度帯で広く高気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近にかけて北偏して流れることに対応。

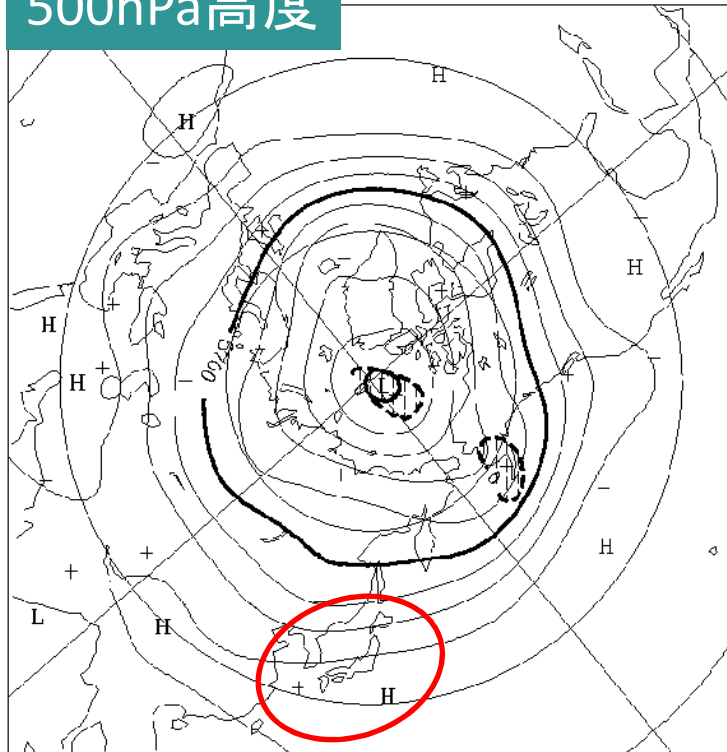
850hPa流線関数



日本の南から西日本付近で高気圧性循環偏差で、太平洋高気圧が日本付近に張り出すことに対応。

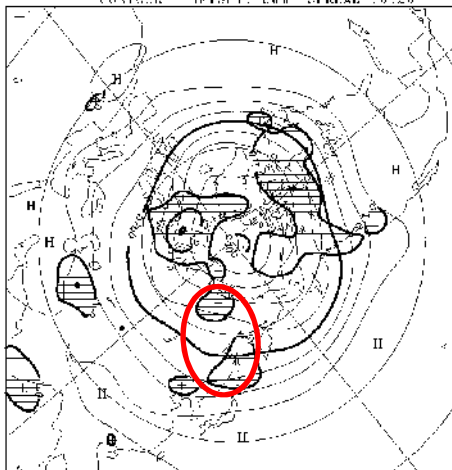
予報資料の解釈 3～4週目(8/9～8/22)

500hPa高度



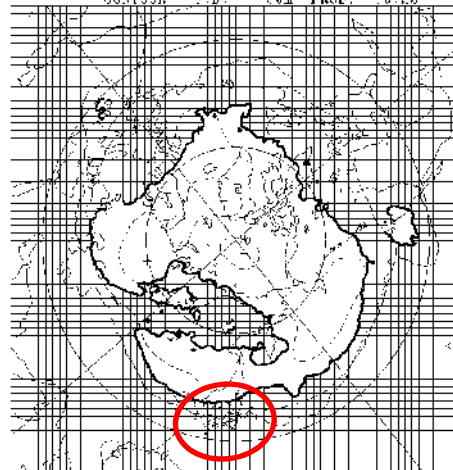
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

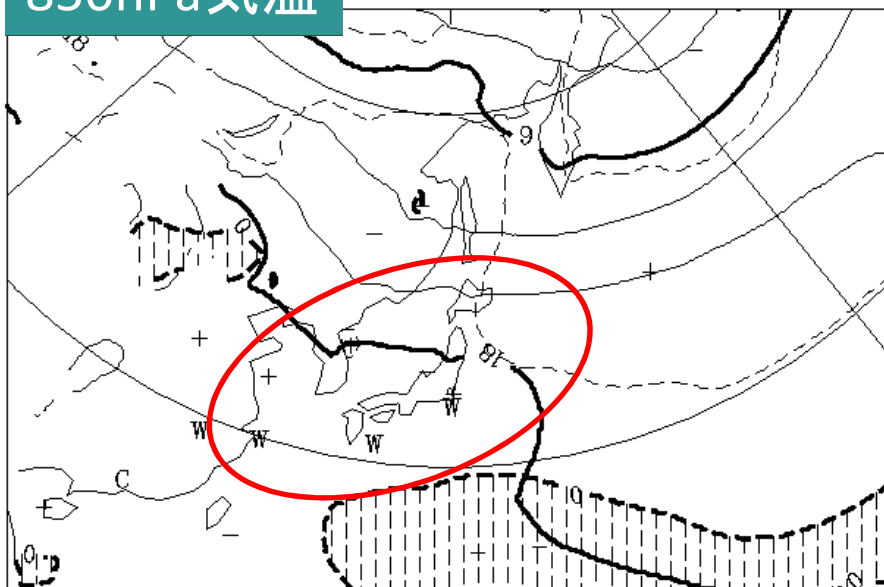
CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差。日本付近も正偏差で東日本以西は高気圧に覆われる。

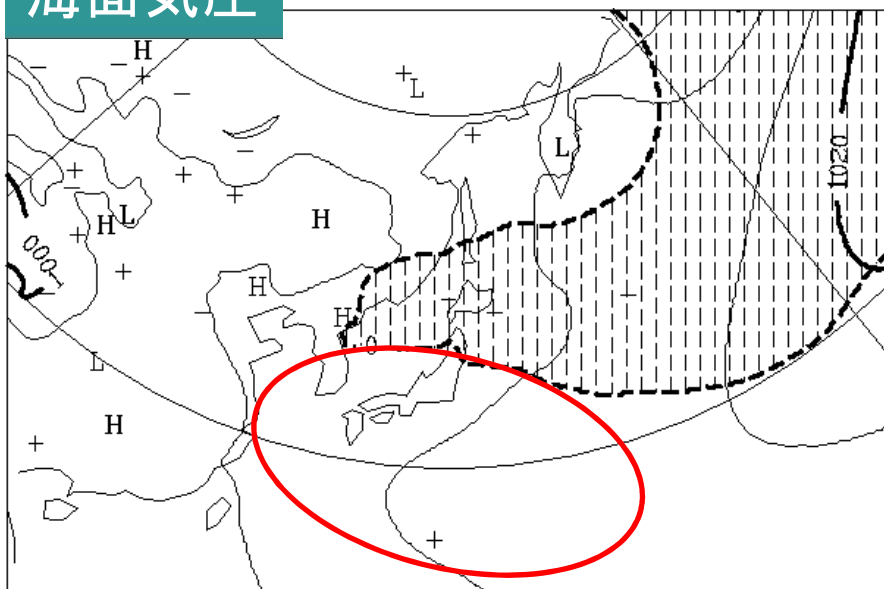
日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本の北でスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播や熱帯じょう乱などの予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は正偏差に覆われる。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の南から
東・西日本に張り出す。

想定される天候

- ・ 北日本では天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

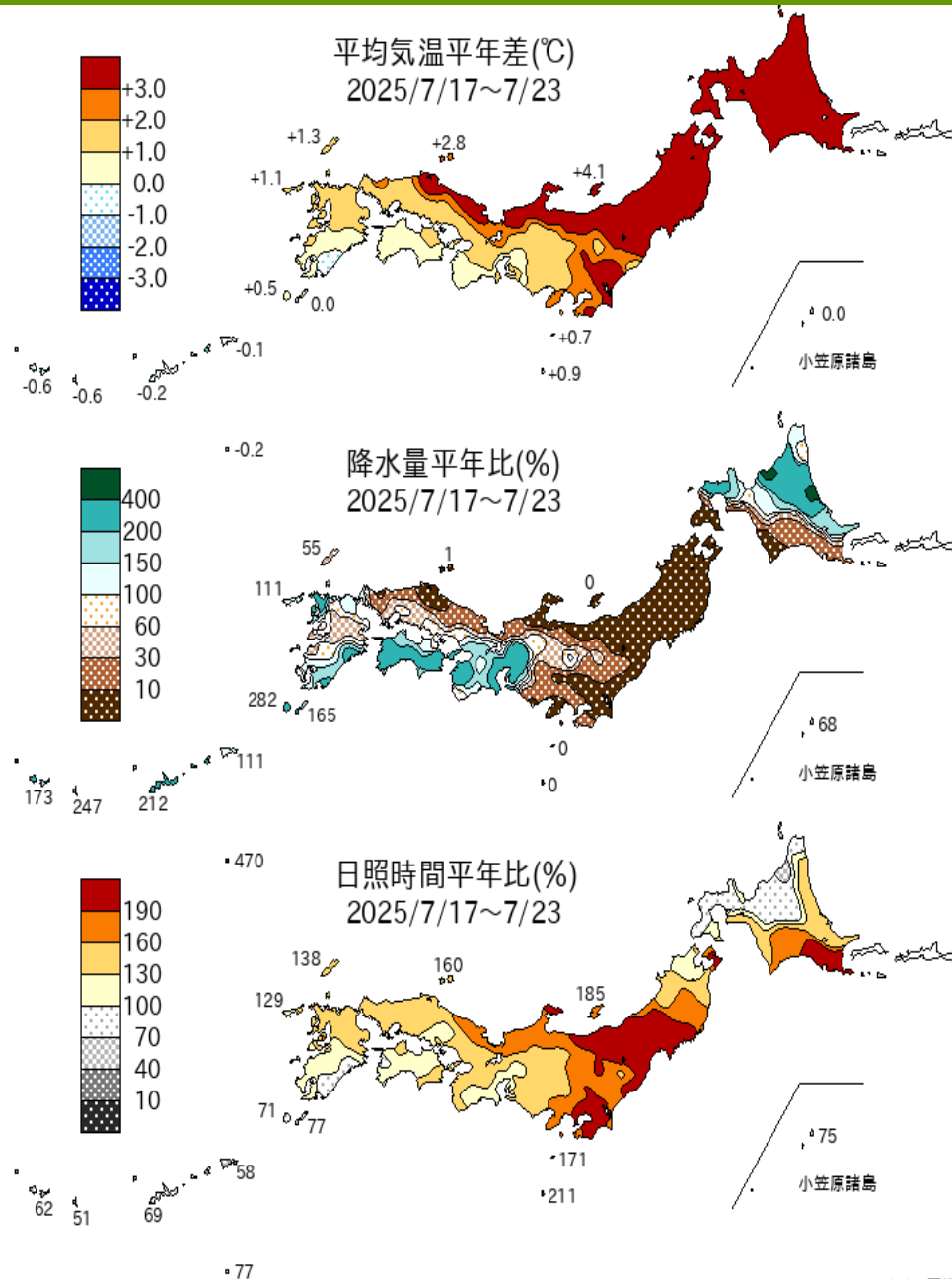
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。

<天候>

全国的に降水量、日照時間とも、平年程度。

最近1週間の天候経過



最近1週間(7月17日~7月23日)は、期間のはじめに太平洋高気圧周辺の湿った空気の影響を受けて、北海道日本海側と西日本太平洋側では、一部で大雨となるなど、降水量が平年を上回りました。そのほかの北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われ、晴れて日照時間が平年を上回り、降水量は平年を下回りました。沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすく、降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回りました。気温は、北・東・西日本では暖かい空気が流れ込みやすく、北日本や日本海側を中心に平年を大きく上回りました。23日は北海道を中心に日最高気温の通年での1位を更新する地点がありました。沖縄・奄美では天気がぐずつき、気温は平年を下回りました。